

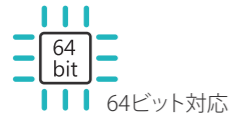


STATE-OF-THE-ART OPEN-PLATFORM
INTELLIGENT VIDEO MANAGEMENT SOFTWARE





エンタープライズレベルのVMSである「AXXON NEXT 4.0」のご紹介



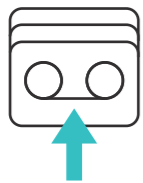
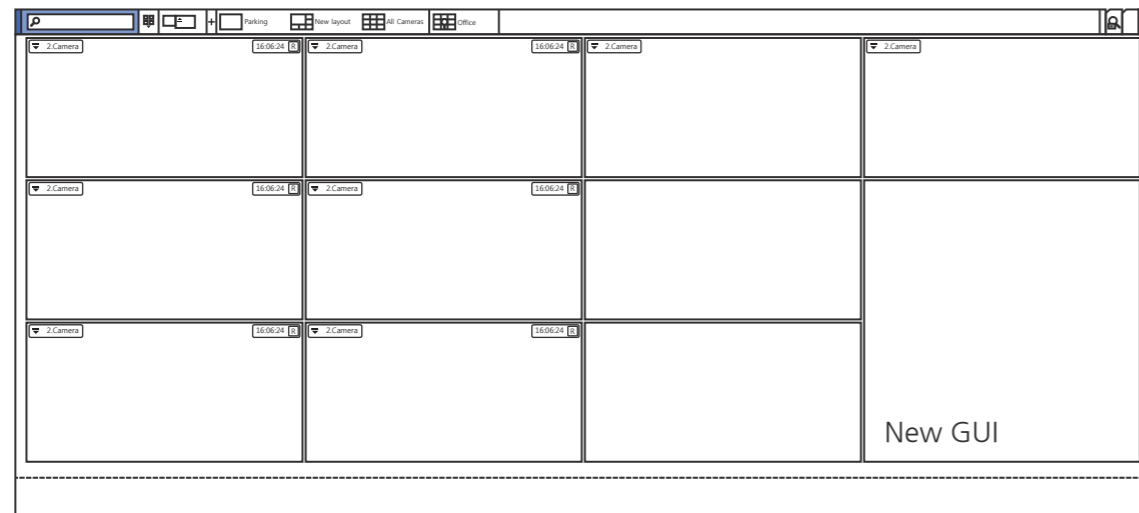
64ビット対応

Linux

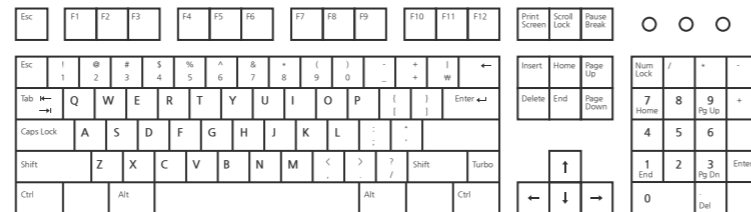
Linux互換性

H.264

H.264対応



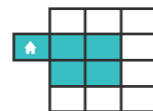
新しいGUIで録画された映像へさらに簡単にアクセスできるよう、ユーザーの利便性を改善



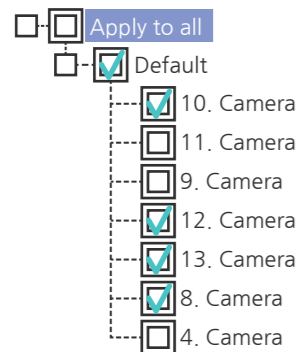
標準のパソコンキーボード、ホットキー、PTZコントローラーキーボード、ジョイスティックに対応



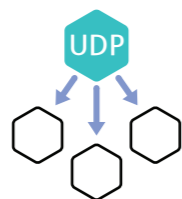
Quick Sync Video対応



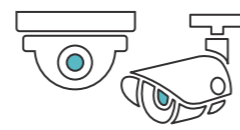
カスタマイズレイアウトを簡単に作成・共有可能



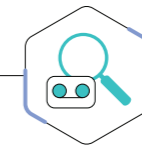
カメラとサーバーの新しい設定機能



UDPプロトコルでサーバーからクライアントにビデオをストリーミング。マルチキャストにも対応

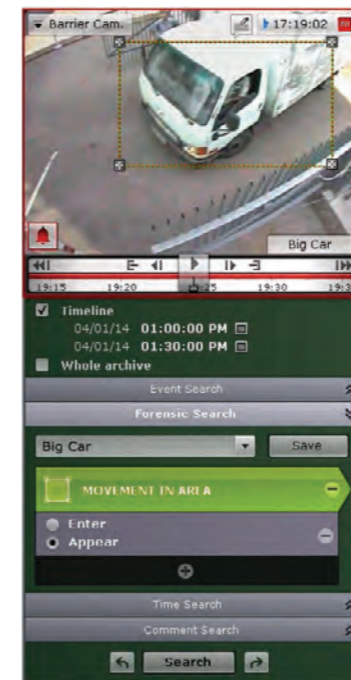


Intel Quick Sync Videoで、より一層便利なカメラ運用が可能



モーメントクエスト

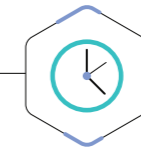
録画映像を用いて、瞬時にフォレンジックサーチ



モーメントクエストは単なる映像検索ツールではなく、ビデオを録画する際に、メタデータを生成する技術集約型の機能です。メタデータのデータベースにより、アーカイブの迅速かつ正確な分析が可能となります。設定エリア内での動き、ラインクロス、大きさ、色、方向、オブジェクトの移動速度などの検索条件を入力すれば、素早くイベントを検索することができます。また、サムネイル映像でイベント検索結果を数秒ほどで確認することができます。モーメントクエスト機能を利用すれば、人の目で24時間監視し続ける必要がなくなります。モーメントクエストでは、さらに高速で効果的な、フォレンジックサーチ機能を提供しています。

モーメントクエストで高速検索を行うことができる理由は、エリア内で動きのあるすべてのオブジェクトから算出されたメタデータに基づいているからです。映像が録画される際に同時に生成されるメタデータは、オブジェクトの属性を保存する特殊な*VMDAデータベースに文字列方式で記録されます。このVMDAデータベース技術により迅速なイベント検索が可能になります。

*VMDAは、現場で発生したことについての説明を索引付けたり保存したりするためのデータベースで構成されているAxxonSoftだけの革新的な技術です。

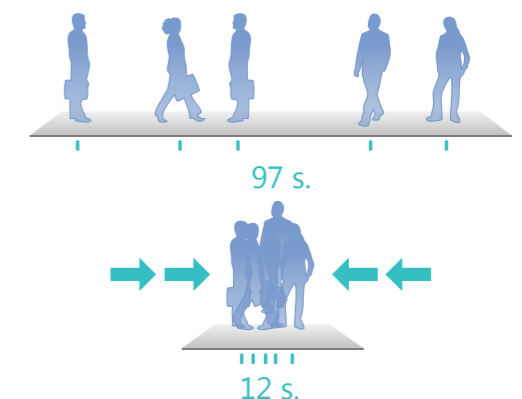
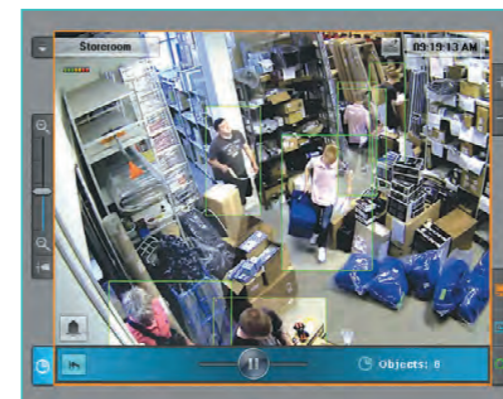


タイムコンプレッサー

視覚効果を最大化させた映像の圧縮

タイムコンプレッサーは、効率的に映像監視ができる新しいパラダイムです。録画映像に映るオブジェクトの動きを、動きのスピードはそのまま維持しつつ時間だけを圧縮し、違う時間帯に存在したオブジェクトを同時に短い映像で再生します。より詳しく確認したいオブジェクトをクリックすれば通常モードに切り替わり、その時点の映像を確認することができます。

タイムコンプレッサーにより、現場で発生した重要な場面を素早く確認することができるため、映像監視の効率性が格段に上がります。





新しいスリックユーザーインターフェース

AxxonNextの強みのひとつは、システム管理と設定が簡単にできることです。

4.0バージョンでは、さらに便利な映像管理を提供するため、洗練されたインターフェースをご用意しております。



新しいレイアウト画面は、より機能的で、コンパクトで、魅力的なデザインとなっております。

メッセージボードパネルは、ユーザーが指定した検出条件に一致するイベントに関するメッセージが表示されます。指定したテキストと反応ボタンも表示されます。

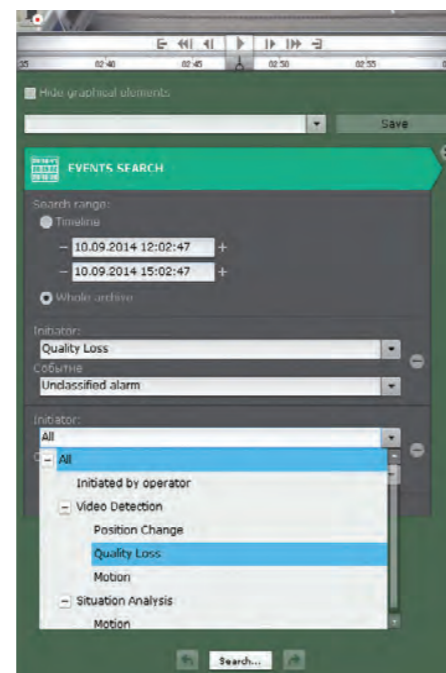
ウェブボードにより、Axxon Nextのレイアウトでウェブページを表示することができるため、カメラなどの設定やウェブインターフェースなどを共に表示することができ、とても便利です。

レイアウトの削除や並べ替えなどが可能な、レイアウトリストの編集のための新しいモードでは、**アーカイブサーチインターフェース**が再設計されました。また、検索方法の基準も一貫した簡潔なものとなりました。

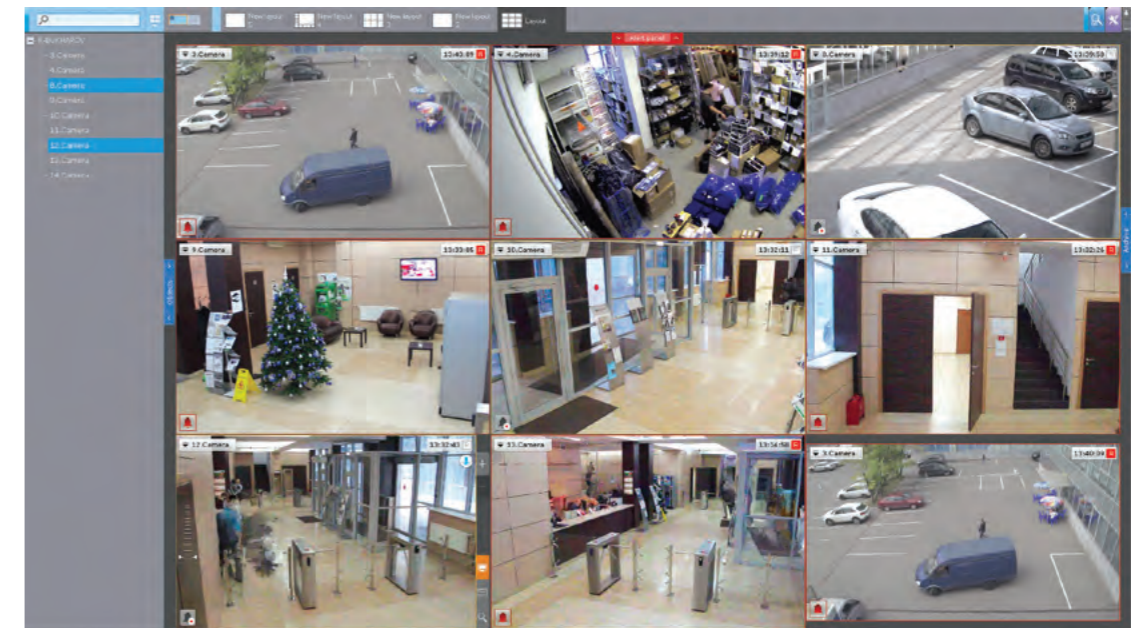
再生する映像がある**アーカイブ**を簡単に選択可能。複数のアーカイブに映像が録画されている場合、ユーザーは再生する映像が含まれたアーカイブを選択することができます。

特別なショートカットを使用し、ワンクリックで現在のレイアウトにあるすべてのカメラを、瞬時に**アーカイブモード**へ切り替えることができます。

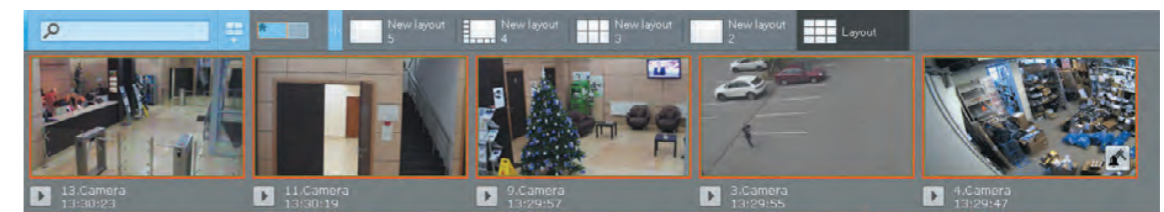
オートディスカバリーウィザードの**新しいインターフェース**により、カメラの管理がより便利になりました。この新しいインターフェースにより、ビデオアーカイブを簡単に作成・設定できるようになりました。



新オブジェクトナビゲーターパネル。このパネルにはシステムのすべてのオブジェクトのリストが含まれており、オブジェクト間の設定オプションを構成できるオーバービュー機能があります。

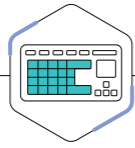


新しい**アラームパネル**は、ドロップダウンウィンドウで構成され、サイズの変更やフルスクリーンへの拡大が可能です。アラームパネルには、オペレーターが注目すべき最近のアラームのサムネイル映像が表示されます。新しいパネルの強みは、表示されるイベントの数に基づいて、パネルやアラームサムネイルの大きさをカスタマイズすることができることです。パネルでは現在の(分類されていない)アラームイベントに加えて、以前処理されたアラームを表示させることができます。



新しい**自動検出ウィザード**画面は、複数のカメラの設定を、より便利に行うことができ、新しいインターフェースにより、ビデオアーカイブを簡単に作成・設定することができます。





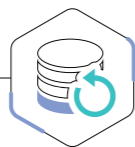
ホットキー

ホットキーや専用カメラコントローラーキーボードで、システムをより迅速に、より便利に利用することができ、オペレーターの反応時間も短縮できます。

AxxonNextのシステム管理がさらに簡単になりました。ユーザーは、システムのある一定の動作をトリガーするため、キーボードキーやジョイスティックボタンの組み合わせなどのホットキーを設定することができます。AxxonNextのシステムは、標準のパソコンキーボード、そしてシステムに接続されたカメラコントローラーキーボードの両方でコントロールすることができます。

頻繁に使用する命令をホットキーとして指定すれば、ユーザーの反応時間を短縮させることができ、その結果、システム全体の反応時間を短縮させることができます。

AxxonNext4.0では、あらかじめ設定されたホットキーが提供されます。デフォルトホットキーでは、一般的な組み合わせを簡単に記憶させることができます。

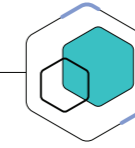


設定のバックアップと復元

便利なシステムのバックアップとロールバック

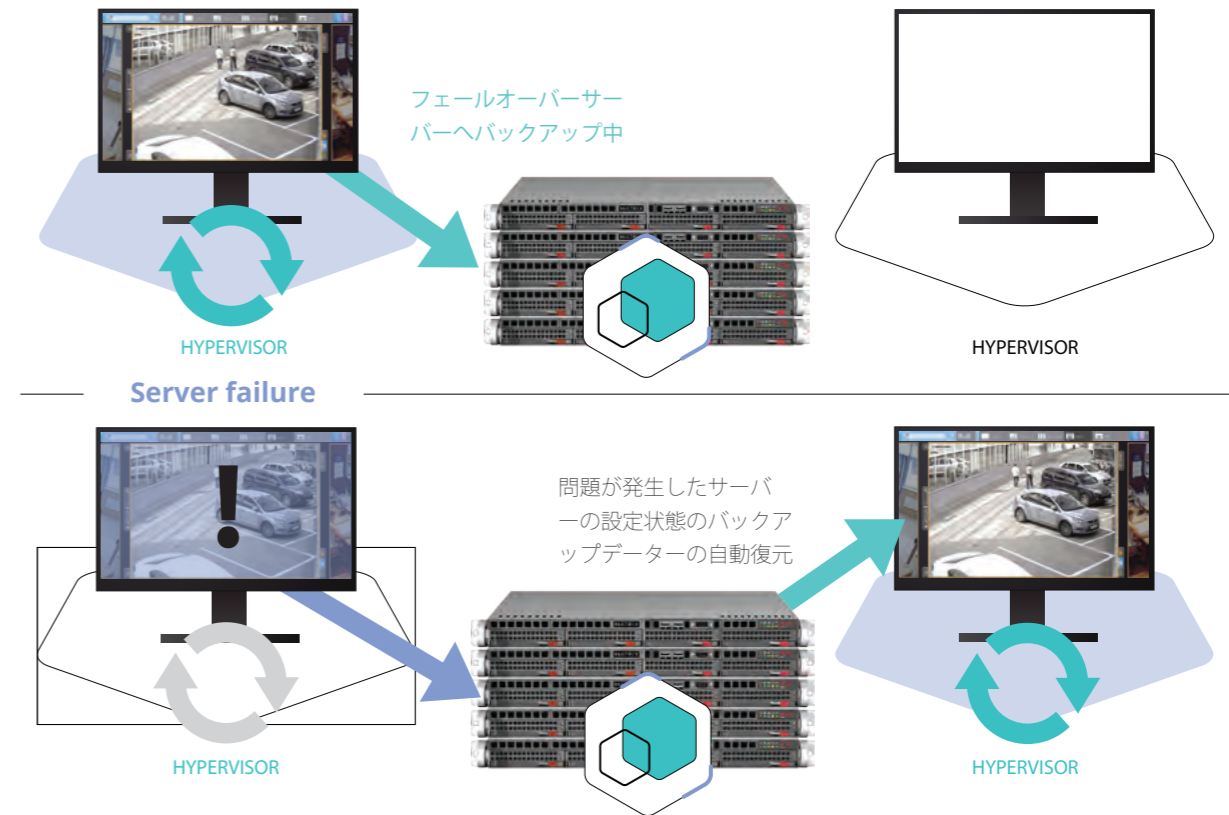
AxxonNextは、Axxonドメインサーバー、システムオブジェクト、そのパラメーター、変更ログ、ユーザー名を含むデータベース、パスワード、カスタムレイアウトなどの設定における保存と復元の新しいユーティリティを提供します。24×7をスムーズに操作するためには、確立されたバックアップルーチンが必要です。

復元する時点を自動作成することで、設定が保存されたシステムをロールバックすることが出来ます。

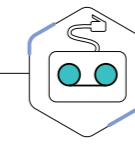


フェイルオーバー

VMSの冗長性の最大化

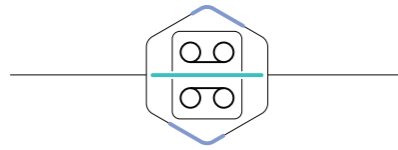


サーバーでシステム設定を行う際、メインサーバーに障害が発生した場合、メインサーバーに代わるフェールオーバーサーバーが選択されます。フェールオーバーサーバーは、問題が生じたメインサーバーの役割を自動で受け継ぎ、すべてのメインサーバーの機能を実行します。特別なハイパーバイザーサービスは、ネットワーク内のドメインのすべてのサーバーの状態を監視することができます。



ネットワークストレージに映像をアーカイブ

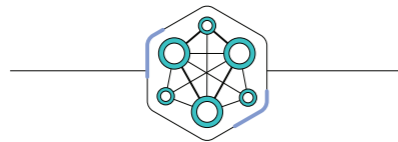
Axxon Next4.0では、さらにビデオアーカイブ機能の信頼性が高まりました。**NASでも録画が可能で、このNASは内部ネットワークでも、外部ネットワークでもホストになることができます。**NASストレージを使用するには、システム内にアーカイブを作成するか、または、システムのディスクを選択する際、該当するネットワークパスを指定します。



ストレージの冗長性

録画したビデオの複製—安全なセキュリティ映像の中央集中型保存

録画した映像は、映像が保存されているサーバーから自動で複製することができます。冗長ストレージやビデオ、オーディオ、メタデータは、メインまたは複数のビデオアーカイブから他のアーカイブへ自動で同期されます。この機能は、長期的に使用されるビデオストレージが録画映像を失わないよう、優れた安定性を保ちます。



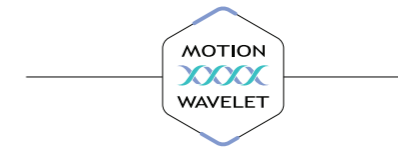
マルチドメイン監視

セキュリティシステム管理のための様々なオプション

マルチドメイン監視は、ひとつのクライアントワークステーションから接続する事業者やシステム管理者に、同じシステムの一部でない別のドメインのいくつかの監視サーバーへのアクセス権限を与えます。このサーバーのすべての設定や、サーバーとつながっているすべてのカメラを、ひとつのクライアント画面で簡単に管理することができます。

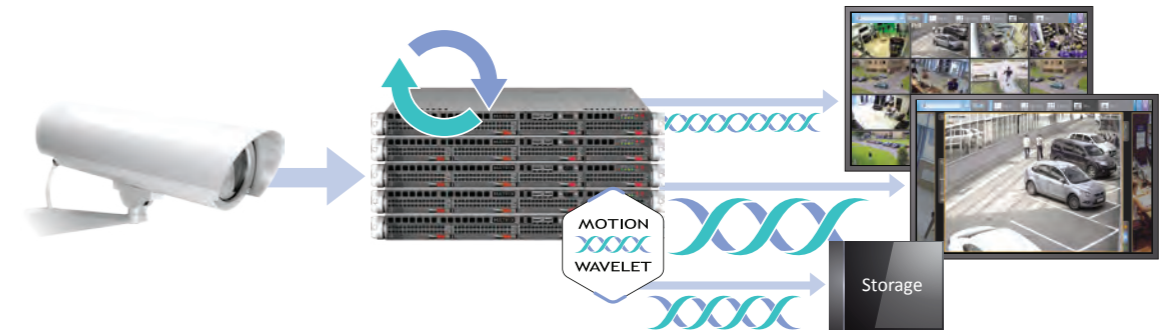
お客様がこれらのシステムを組み合わせられない、または、組み合わせたくないという場合でも、システム運営者は複数の独立した監視システムに同時にアクセスすることが可能です。この技術は、施設数が多く、地理的にそれぞれのシステムが分散した現場などにおいて特に便利で、小売りチェーンやガソリンスタンドなど分散されたネットワークにおいて、管理がより便利になります。そのため、分散されたシステムをひとつのドメインで構成するための複雑な設定を行う必要がありません。

この機能により、事業者は各サーバーにアクセスすることなく、すべてのシステム機能を使用することができ、必要に応じて、ワークステーションから遠隔監視システムを構成することができます。



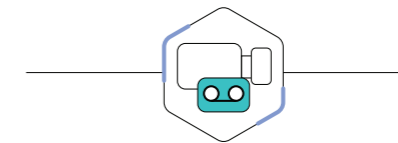
モーションウェーブレットトランスコーディング

4.0バージョンでは、現状に基づき、モーションウェーブレット形式で、クライアントが要求したビデオの質を選択する際、より高い柔軟性をもたらし、再圧縮や保存ができる機能が追加されました。グリーンストリームは、現在のネットワーク状態やクライアントの解像度の要件に合わせて変更できるモーションウェーブレットビデオでの第三のストリームを提供しています。

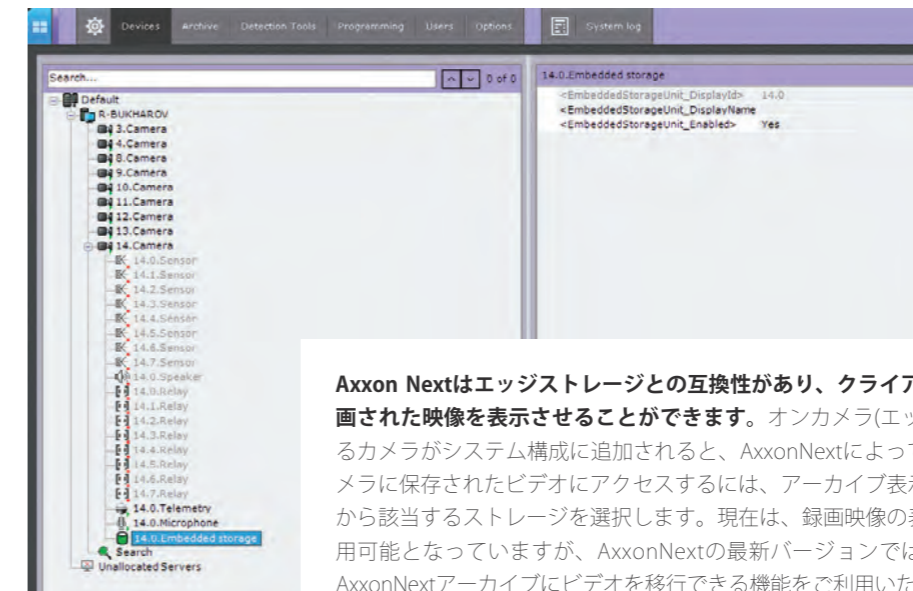


モーションウェーブレットは、リモートクライアントにストリーミングしたビデオの質の柔軟な選択を可能にするウェーブレット変換に基づいた効率的なビデオコーデックです。これは、**グリーンストリーム**とともに最も頻繁に使用されます。

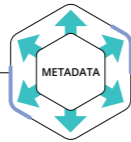
グリーンストリームにより、回線容量やクライアントCPUリソースを節約できます。グリーンストリーム機能は、現在クライアントに表示されているビデオの解像度に基づき、クライアント用のサーバーからビデオストリームを自動で選択します。



SDカードのサポート



Axxon Nextはエッジストレージとの互換性があり、クライアント画面にSDカードに録画された映像を表示させることができます。 オンカメラ(エッジ)ストレージは、該当するカメラがシステム構成に追加されると、AxxonNextによって自動で検出されます。カメラに保存されたビデオにアクセスするには、アーカイブ表示モードのカメラメニューから該当するストレージを選択します。現在は、録画映像の表示とエクスポートのみ利用可能となっていますが、AxxonNextの最新バージョンでは、エッジストレージからAxxonNextアーカイブにビデオを移行できる機能をご利用いただけるようになります。

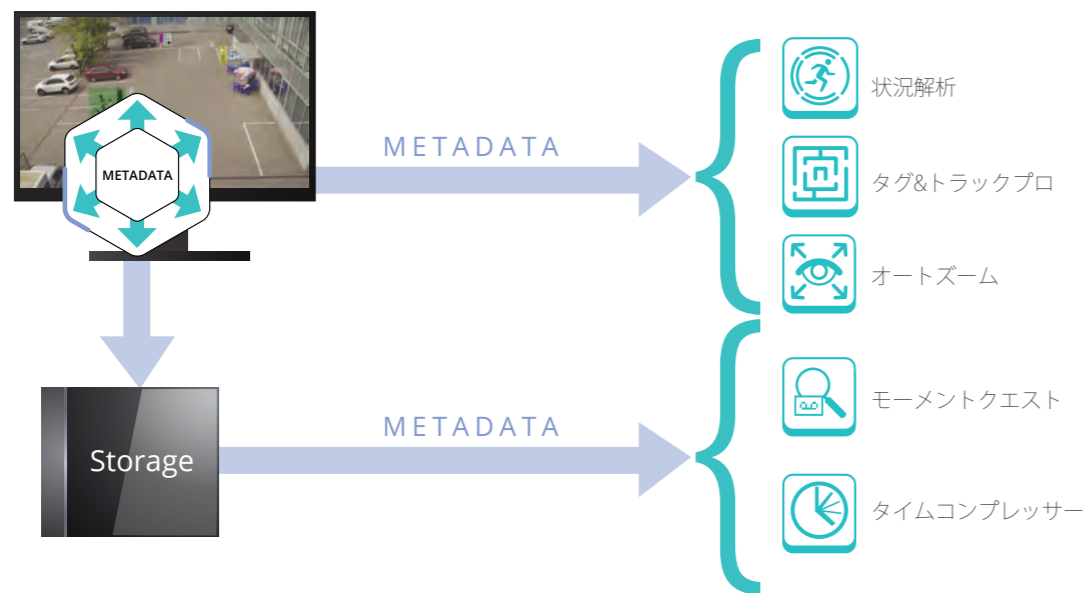


IPデバイスからのメタデータ

独自の画像解析ツールにより、セキュリティシステムの効率性を最大化

メタデータは、カメラ自体で生成されるため、サーバー側でビデオを解凍する必要がなく、ビデオサーバーのCPU負荷が大幅に低減され、サーバーが複数のビデオストリームを処理することができます。

CPU負荷の軽減により、Axxon Nextの映像解析機能の性能がさらに向上します。



状況解析 - カメラが映した映像での動きの解析に使用される検索ツールの集合のことで、置き去りやラインクロッシング検出などがあります。



モーメントクエスト - 高速かつ正確な分析のため、記録する瞬間にメタデータを生成します。知りたいイベントは、必要な条件を入力するだけで検索することができ、エリア内の動き、ラインクロッシング、大きさ、色、方向、移動速度などの検索が可能です。該当する映像のサムネイルが秒単位で表示されます。



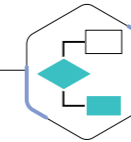
タイムコンプレッサー - ある場面において、すべてのオブジェクトの移動が圧縮された映像を取得できます。圧縮されたビデオクリップでは、オブジェクトの元の移動スピードを維持しつつ、すべてのVMDイベントを表示します。そのうち1つのオブジェクトをクリックすると、通常モードに切り替えることができ、より詳細に確認することができます。



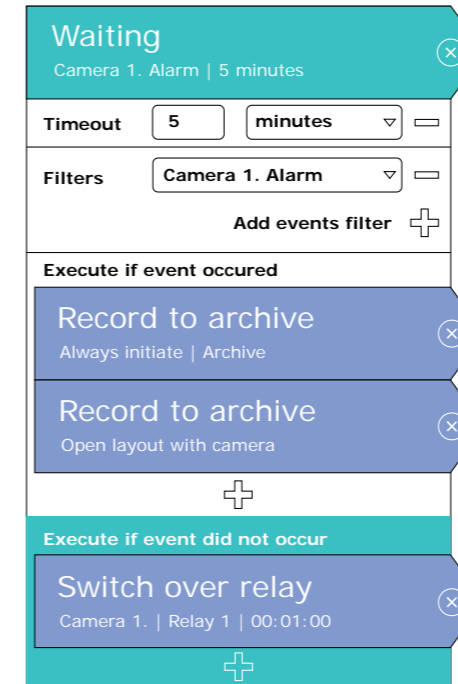
オートズーム - 自動デジタルズームで、移動するオブジェクトを簡単に監視することができます。オートズームでは、移動するオブジェクトを含むFoVの一部が拡大されたビデオが表示され、クローズアップする際、ムービーカメラで撮影しているかのような動きでオブジェクトを追跡します。



タグ&トラックプロ - ロックオンして、移動する物体を追跡すると同時に、その周辺で動いている物体の詳細画像を取得し、その現場で起こっている「全体像」を取得できます。(より詳しい情報は11ページにあります。)

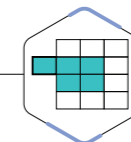


マクロ



AxxonNextの新しいバージョンでは、指定したイベントの発生に対する複雑なシステム反応を柔軟に設定できるようになっています。ユーザーは、「IF・・・THENロジック」などを使用したシステムのアクションの数に制限なく、自動で実行されるマクロを作成することができます。

マクロは、特定のイベントに対する反応を、システムで行うか、デバイスで行うかなどをコントロールするアルゴリズムをプログラミングすることができます。



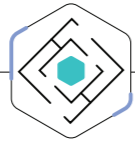
ビデオウォール2.0

大規模な分散した場所のビデオウォールや、そのレイアウトの効率的な管理

この技術により、事業者はシステム内に構成されたレイアウトを選択し、ビデオ監視サーバーに接続しているクライアントコンピューターのモニターに送信することができます。ビデオウォール2.0は、マルチレベルの映像監視を必要とする大規模な監視ハブで、地理的にとても複雑な場所を管理する際に非常に便利です。事業者がレイアウトを送信すると、レイアウトのカメラのうちの1台から取り込まれたイベントの方に注意を引かせることもできます。同様に、ビデオウォールにレイアウトを送信することによって、すべての人々がイベントを閲覧できるようになります。

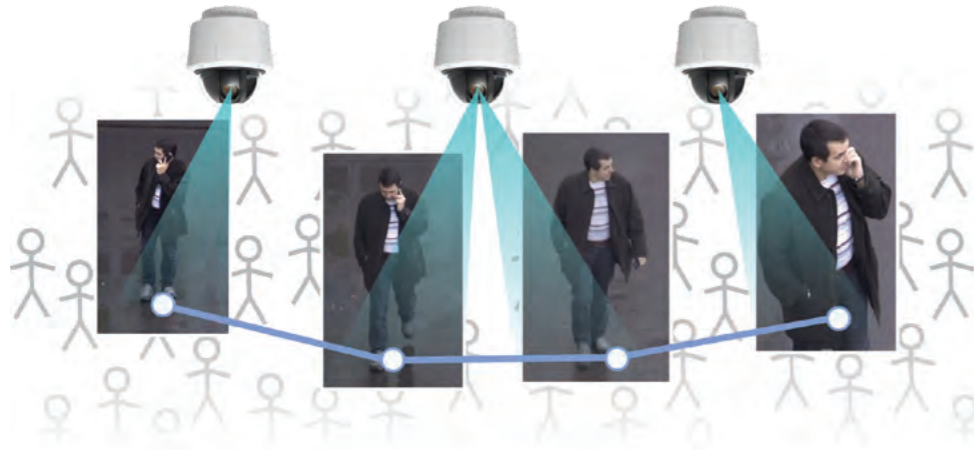
ビデオウォールの新しい機能を利用する様々な方法があります。十分な仕様のモニターがあれば、いかなるクライアントコンピューターもビデオウォールとして指定でき、アクセス権限を持つすべてのユーザーは、ビデオウォール管理を行うことができます。リモートクライアントは、どのドメインサーバーに接続されていても使用することができます。このように、ビデオウォールは機能的に大変優れており、システム設定に多くの時間をかける必要はありません。





タグ&トラックプロ

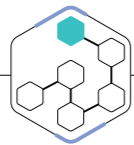
移動する様々なオブジェクトに合わせて追跡しながら撮影



AxxonNextの新しいバージョンでは、タグ&トラックプロを利用し、移動する複数のオブジェクトを同時に追跡することができます。

タグ&トラックプロは、映像内で移動する物体にフォーカスを合わせ、複数のカメラでその物体を追跡し続けます。また、その周りで動く物体の詳細画像も取得できるため、その現場で起こっている『全体像』をすべて同時に確認することができます。このように保存される2つの画像のセットは、後のイベント検索の際に必要となります。

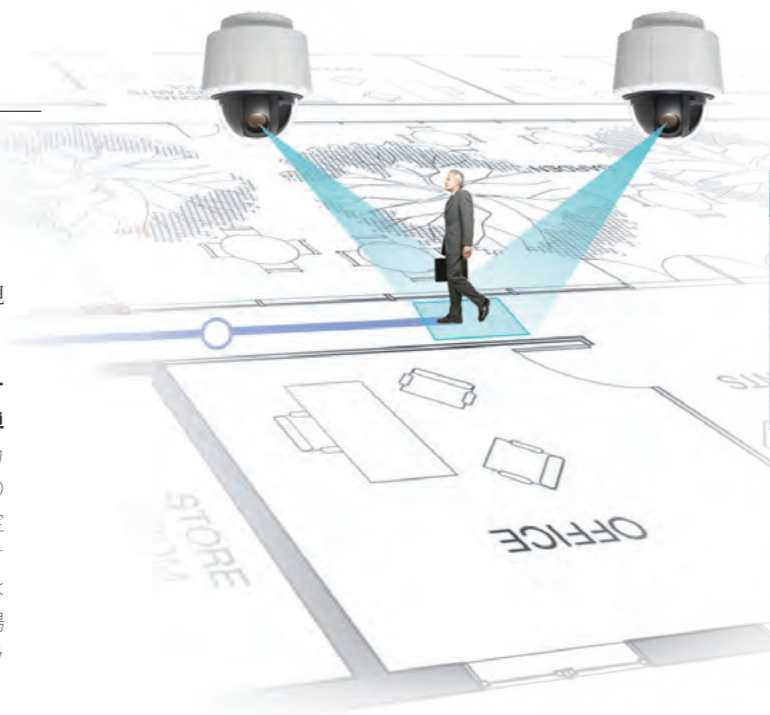
この機能を利用するためには、少なくとも、パノラマカメラとPTZカメラの2台のカメラが必要となります。パノラマカメラは、フレーム内で移動するオブジェクトを検出しその座標を算出するトラッカーで構成されており、パノラマカメラの中には、PTZユニットとつなぐことができるものもあります。



タグ&トラックライト

物体の軌道を予測し、リアルタイムで簡単に監視

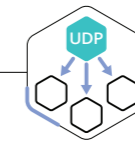
タグ&トラックライトにより、カメラの視野から消えた後、オブジェクトが現れる可能性が高い場所を予測することで、簡単に監視が行えます。この機能を利用するためには、すべてのカメラがサイトマップにリンクされている必要があります。そのうえで、カメラの位置やそれぞれの視野の位置を地図上で指定することができます。追跡するオブジェクトを選択し、そのオブジェクトが、あるカメラのFoVから消えた場合、AxxonNextはその軌道を計算し、次にオブジェクトが現れると予想される場所にあるカメラを定めます。『潜在的な目的地』にあるカメラは、現在のレイアウトにて強調されて表示されます。



LDAP認証

既存のエンタープライズネットワークサービスとの統合

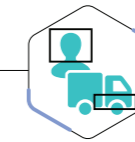
LDAP認証により、大規模な企業などにおいて、システム管理者のユーザー管理作業の重複をなくすることができます。Axxon Nextを利用しVMSアクセス権限を企業のディレクトリグループと連動させることができます。システム管理者は、社内LDAPディレクトリ経由で認証情報を設定し、Axxon Nextの権限を割り当てるユーザーを選択します。システム管理者はAxxon Nextを利用して、企業のディレクトリグループとVMSのアクセス権限を関連付けることができます。



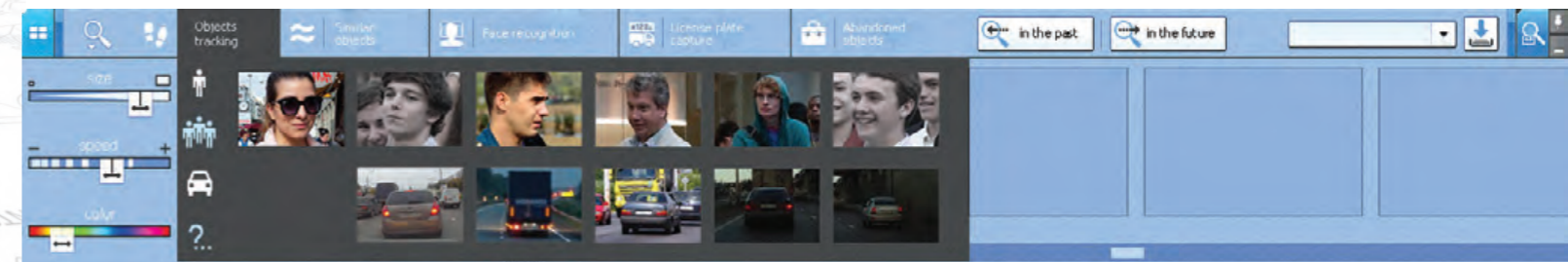
サーバーとリモートコンピューターでストリーミングされるUDPビデオ

Axxon Nextの新しいバージョンでは、帯域幅の消費を低減させ、セキュリティシステムの効率性を向上させるための特別なツールを提供しています。

ライブビデオは、UDP経由で、サーバーからリモートコンピューターにストリーミングすることができます。マルチキャストも可能です。マルチキャストにより、ネットワーク容量が開放され、リソースの使用が最適化されます。



顔認識とナンバープレート認識



近々Axxon Nextでは、映像において顔が表示された場合、顔と共に座標を録画できるようになります。このデータはサーバーで処理されるか、または、オンボードフェイスキャプチャ機能の付いたカメラの場合は、カメラに基づいて計算されます。FoVで顔を認識したら、特殊なアラームが発生します。録画された映像にて、対象となる顔が映っているすべての場面を検索することができます。

AxxonNextでは、ナンバープレートの番号を認識する、または、それらに基づいた録画映像を検索することができるサポートも実施する予定です。

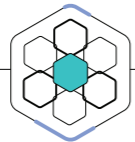
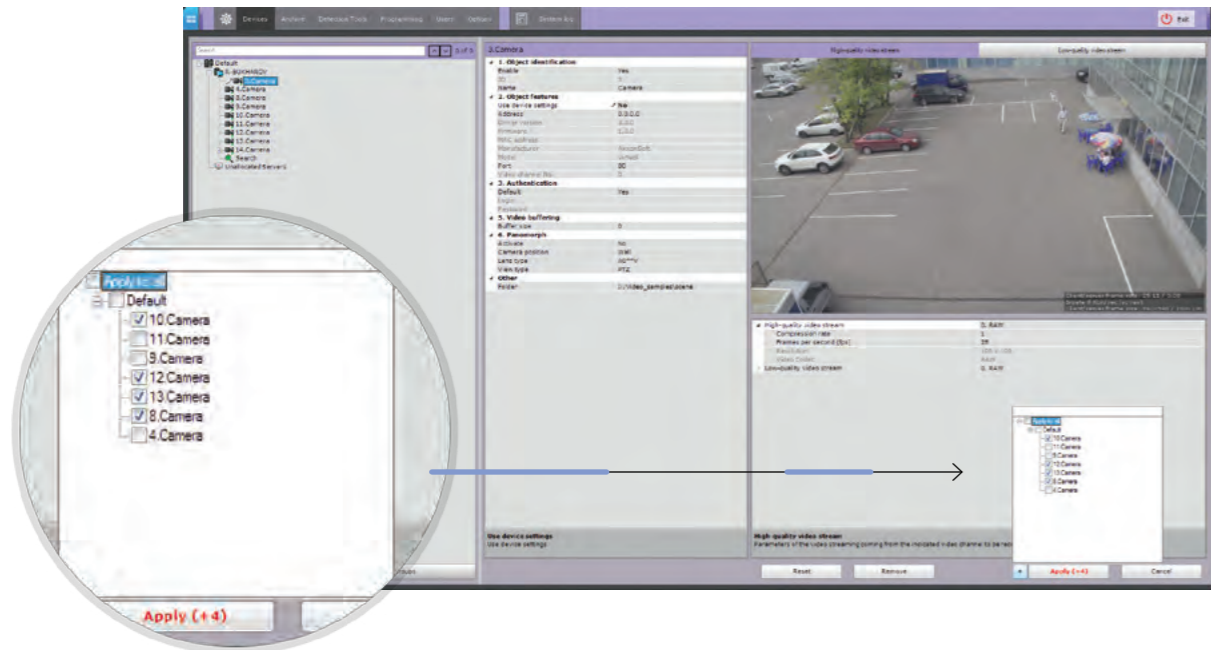


大規模なカメラ構成

大規模な場所において設定時間を節約

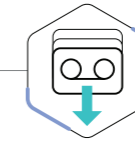
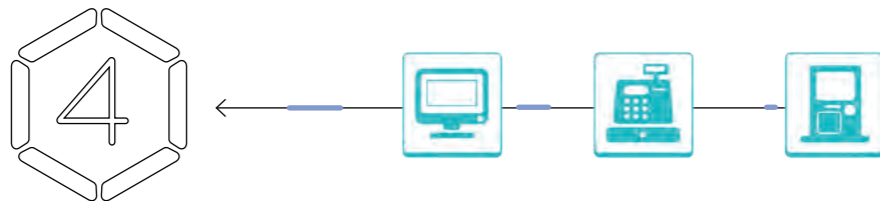
特に大規模な場所において設定作業に時間がかかる場合がありますが、AxxonNextでは、同時に複数のカメラ設定を変更し、グループで設定することが出来るなど、何台ものカメラの**一括設定**を行うことができます。同じ製品ラインのカメラへの変更は、クリックひとつで適用させることができます。

また、必要に応じて、まず一台のカメラの設定を行い、その後リスト内の設定が必要な同ラインの他のカメラを選択します。あとは、「適用」をクリックするだけ！選択したすべてのカメラの変更された設定内容は、自動的に保存されます。



外部イベントサポート

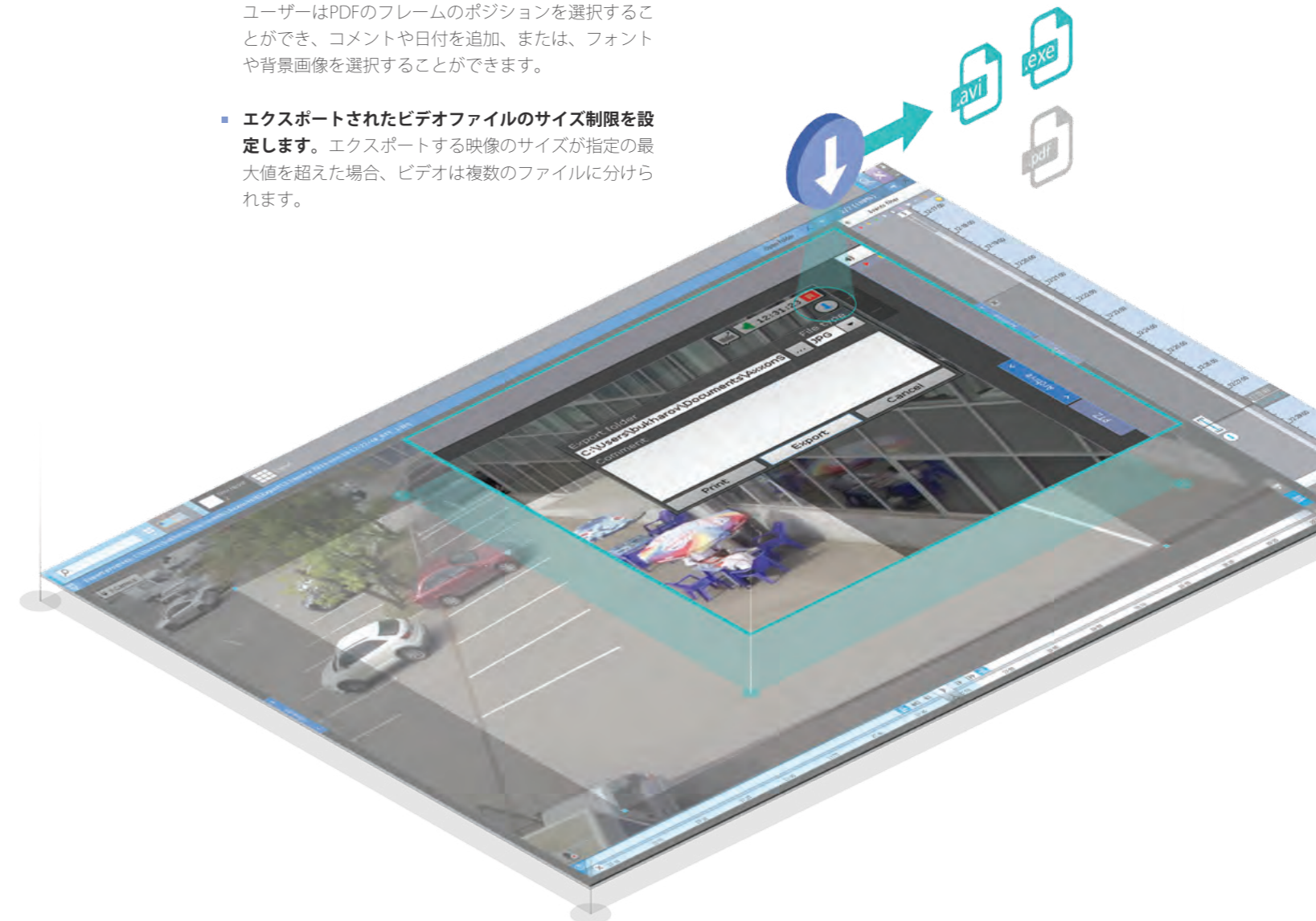
AxxonNextにはキャッシュレジスター、アクセスコントロールデバイス、サードパーティのソフトウェアなど、**様々な外部デバイスとシステムからイベントを取得できる新機能も含まれています**。これらの機能により、サードパーティシステム製品を迅速かつ簡単に統合することができます。Axxon Nextでは、外部イベントを受け取ってデータベースへ保存でき、また、録画映像とイベントを比較しテキストでイベントを検索することができます。さらに、各ウィンドウにリアルタイムでイベントを表示、または、字幕テキストをビデオ上へ表示させることができます。

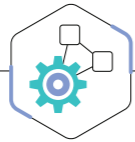


新しいエクスポート機能

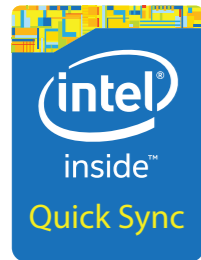
AxxonNext4.0の新機能でさらに進化した録画映像のエクスポート機能：

- **インスタントエクスポート**：画像や映像は、ライブビデオモード、または、アーカイブモードから、クリックひとつでエクスポートすることができます。時間間隔の設定はオプションです。制限を設定していない場合、ユーザーが停止させるまでエクスポートが継続されます。
- **エクスポートされたビデオのフレームドロップ**。
- **プライバシーマスキング**。エクスポートする前に、ユーザーは最終的なビデオや画像においてマスク(モザイク加工)する領域を選択することができます。
- **部分的なフレームのエクスポート**。(画像処理された魚眼レンズのフレームを含む)
- **映像にユーザーのコメントをつけてエクスポート**。
- **選択したフレーム領域のエクスポート**。
- **.aviや.exeファイルに映像をエクスポート**：一般的なビデオプレーヤーを使用して、あらゆるコンピューターにおいてエクスポートした映像を再生できます。
- 設定可能なエクスポートテンプレートを使用し、スナップショットを**PDFファイルでエクスポート**します。ユーザーはPDFのフレームのポジションを選択ことができ、コメントや日付を追加、または、フォントや背景画像を選択することができます。
- **エクスポートされたビデオファイルのサイズ制限を設定**します。エクスポートする映像のサイズが指定の最大値を超えた場合、ビデオは複数のファイルに分けられます。



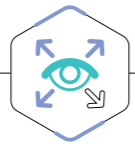


インテルクイックシンクビデオ



インテルクイックシンクは、専用のハードウェアCPUコアの、ビデオエンコーディング/デコーディングの負荷を軽減させ、より迅速に結果を提供し、サーバーCPUパフォーマンスのビデオフットプリントを削減します。インテルクイックシンクは、HDや高解像度ビデオに対応しているため、サーバーは、より優れた解像度で、より多くのビデオストリームを同時処理することができます。このようなパフォーマンスの向上により、Axxon Nextにて追加された解析機能を実行できるようになりました。(カメラの台数によって測定される)サーバー容量並びにビデオエンコーディングとデコーディング時間も飛躍的に改善されました。

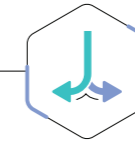
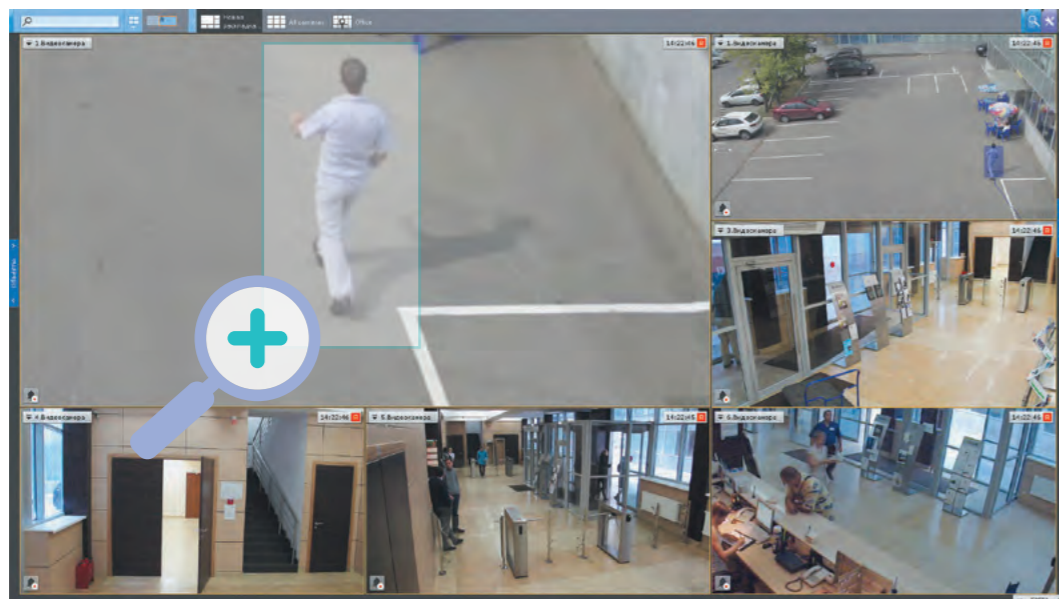
特に、IPカメラメーカーが次々とメガピクセルカメラを販売している現状において、インテルクイックシンクに対応している意義は大きいと言えます。この技術で解放されたCPU処理能力により、多くのカメラをひとつのサーバーに接続させることができ、ハードウェアの費用とサポート面での問題を減らすことができるようになりました。



オートズーム

移動するオブジェクトを追跡し、ズームイン

オートズームは、視野内で自動的にオブジェクトを追跡します。この機能は、移動するオブジェクトがいる現場のエリアを拡大し、オブジェクトをクローズアップして撮影する際、まるでムービーカメラのように、動きに沿ってその物体を追跡します。オートズームは、ボックスカメラ（デジタルズーム経由）、魚眼カメラなどで使用可能です。魚眼カメラでのオートズームは、移動するオブジェクトを追跡するePTZカメラのように動きます。現場で移動する複数のオブジェクトが同時に存在している場合、フレームにすべての物体が収まるようにズームが調整されます。フレーム内に移動するオブジェクトが存在しない場合、オートズームは実行されず、全体的な現場の様子が映し出されます。



グリーンストリーム

帯域幅とクライアントCPUリソースを節約



複数のカメラをモニタリングする場合、最低限の解像度と画質でディスプレイ

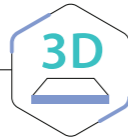
アーカイブに保存、または、全画面表示にする場合は最高の解像度と画質に変換

グリーンストリーム機能は、カメラで撮影された映像がサーバーに送られ、再びクライアントに送信される際、自動でクライアントの解像度に最適化されたビデオストリームが表示されます。

最近の多くのIPカメラは、マルチストリーミングができるようになっています。解像度とフレーム速度を調節し、また、他のコーデックを利用してストリーミングすることもできます。

しかし、遠隔監視ワークステーションは、常に高解像度でカメラ映像を表示することはできません。クライアントが1920×1080ピクセルの画面解像度で、4x3のカメラレイアウトで構成された場合、各カメラの映像の解像度は、480×360ピクセルとなります。そのため、すべてのカメラを高解像度ストリームで送信するためのネットワークを構築する必要はありません。そして、ビデオをデコーディングし、各セルを480×360解像度に合わせてリサイズすることによってCPUリソースの消費を抑えます。

グリーンストリームは、表示可能な十分な解像度を有する最小ストリームを自動で選択します。しかし、ユーザーがカメラ映像を全画面に設定した場合、高解像度ストリームが自動で選択されます。また、クライアントに送信するストリームを固定することもでき、この場合、ストリームはクライアントの画面解像度により自動選択されません。グリーンストリームは、低容量ネットワークや非対称接続にて帯域幅を大幅に節約できる技術です。



インタラクティブな3Dマップ

地図上でカメラの位置を一目で確認



インタラクティブな3Dマップは、監視現場のすべてのシステム状況を地図上に表示するデジタル青写真と言えます。監視画面で映像表示タイルの下に、地図が表示されます。マップ上では、映像が映し出されているカメラの位置や方向、そしてセンサーの位置などを示すことができます。映像表示タイルをクリックすれば、マップ上に配置されたそれぞれのカメラがどこにあるのかをすぐに確認することができます。

インタラクティブマップを利用すれば、カメラに記録されたイベントが発生した場所を瞬時に確認することができます。特に、似たようなカメラの映像が表示される、または、見た目が似ている建物の廊下など区別の難しいエリアの場合、有効に活用できます。



イメージョンモード

フレーム内のオブジェクトの動きが、地図上に反映される

イメージョンモードは、インタラクティブマップの標準機能を越える機能で、このモードでは、半透明の映像が地図上に表示され、人やモノがいる（ある）場所がどこなのか、どこで何が発生しているのかを、簡単に確認することができます。映像に映る家具、ドアといった固定された物の位置を地図上に表示することで、実際に動いているオブジェクトの移動経路をそのまま見ているような監視が行えます。このように、各映像がどこを映していて、どの方向を向いているのかを正確に表示させることができます。

パノラマカメラでイメージョンモードを利用する場合、ユーザーはカメラドームの内部から外部を観察しているかのように感じられます。スクリーンには、オブザーバーの真正面にあるバーチャルドームの一部のように表示されます。

イメージョンモードにおいての映像が、地図上に表示されたカメラのアイコンが示す地図上の一部である場合、そのアイコンをクリックすると対象となるカメラの全領域が選択されます。したがって、運営者はイメージョンモードのまま全体のカメラに映るオブジェクトの動きを追跡することができます。



モバイルアプリケーション AXXON NEXT

いつでもどこでも便利なモニタリング



Download iOS app for free.

App also available on Google Play (Android version).
Get the latest AxxonSoft news at www.axxonsoft.com | www.axxonnext.com



